

目次

●ニュース

防災人材育成研修「防災・減災カレッジ」を開講	3
サイエンスイラストレーション・サマースクール2012 in あいちを開催	4
石岡繁雄氏の旧蔵資料が本学に寄贈・寄託される	4

●知の未来へ

短半減期化学物質の生物学的曝露モニタリング	5
上山 純（大学院医学系研究科准教授）	

●知の先端

北前船主と近代日本の産業化	6
中西 聡（大学院経済学研究科教授）	

●教育の研究とプラクティス

高大連携事業 教育学部附属高等学校生徒がモンゴルで研修	8
教育学部附属中・高等学校	

●部局ニュース

テクノ・フェア名大2012を開催	10
メディカル・デバイス産業振興協議会による医療現場視察会を実施	11
平成24年度 SSH 中核的拠点育成プログラムワークショップ教員研修を開催	11
体験学習「たたら製鉄実験」を開催	12
第82回防災アカデミーを開催	12
平成24年度目録システム地域講習会を実施	13
第26回トークサロン「ふみよむゆふべ」を開催	13
第16回博物館特別展「大モンゴル展」を開催	14
実験展示「メディアアート展」を開催	15
第2回地球教室を開催	15

●資 料

平成23年度決算のトピックス	16
----------------	----

●受賞者一覧

●本学関係の新聞記事掲載一覧 平成24年8月16日～9月15日	21
---------------------------------	----

●イベントカレンダー

●ちょっと名大史	27
----------	----

学部の誕生と草創期③ ― 理学部 ―	32
--------------------	----

「防災・減災カレッジ」を開講 防災人材育成研修





- | | | |
|---|---|----------------|
| 2 | 3 | 1 講義をする福和センター長 |
| 1 | | 2 防災基礎研修の様子 |
| | | 3 受付の様子 |

防災人材育成研修「防災・減災カレッジ～地域協働による“ひと・まち・みらい”の創造～」が、7月28日(土)、8月3日(金)、4日(土)、18日(土)、21日(火)、25日(土)、豊田講堂、環境総合館等において開講されました。同研修は、行政、事業者団体、地域団体、ボランティア団体等で構成され、災害被害の軽減に向けて県民運動を推進している「あいち防災協働社会推進協議会」が今年度から始めたもので、本学のほか、愛知県、名古屋市、愛知県商工会議所連合会、一般社団法人中部経済連合会、防災のための愛知県ボランティア連絡会、なごや災害ボランティア連絡会が共催しました。

初日の7月28日(土)は、豊田講堂において「防災基礎研修」6科目の講義が行われ、今年度同カレッジに入学し

た約300名の市民が参加しました。

午前中は、福和減災連携研究センター長による「防災概論」、山岡環境学研究科附属地震火山研究センター長による「自然災害概論」、夏目吉昌愛知県防災局防災危機管理課長による「防災行政概論」の講義が行われました。

午後からは、村上誠二岩手県陸前高田市市長洞元気村事務局長が、「3.11を振り返って」と題して、被災地の地域コミュニティを維持するために奔走する長洞元気村の活動を紹介しました。長洞元気村は、東日本大震災で被災した陸前高田市広田町長洞地区の住民が居住している仮設住宅団地です。さらに、栗田暢之特定非営利活動法人レスキューストックヤード代表理事による「防災ボランティア論」、渡辺研司名古屋工業大学工学研究科教授による「企

業防災概論」の講義が行われ、受講者は熱心に聴講していました。

また、8月3日(金)以降に「市民防災」、「企業防災」、「防災行政」、「地域防災」、「防災ボランティアコーディネーター」の計5コースに分かれてそれぞれ2日目と3日目の講義を受講し、さらに救命救急講座等を選択受講するなどした受講生は、「防災・減災カレッジ防災リーダー」や「防災・減災カレッジ防災ボランティアコーディネーター」、「防災・減災カレッジまちづくりアドバイザー」の資格を取得しました。

同研修は、減災連携研究センターが全面協力して開催しており、優秀な防災・減災人材の育成を通じて地域の防災力を高めていくという形での「大学と地域との連携」が、いよいよ本格的に始動しはじめたことになります。

体験学習「たたら製鉄実験」を開催

●年代測定総合研究センター

年代測定総合研究センターは、8月18日(土)、19日(日)の2日間、体験学習「たたら製鉄実験」を開催しました。これは、平成24年度総長裁量経費地域貢献特別支援事業として、小中学生を対象に実施したものです。

同センターは、鉄製文化財である日本刀、鉄鍋や鉄釘、また、製鉄遺跡から出土した鉄滓や木炭等を放射性炭素



たたら製鉄実験の様子

(^{14}C) 法により年代測定し、古代日本における製鉄や鉄の利用を研究しています。たたら製鉄は、木炭と砂鉄を用いて金属鉄を作る古代の製鉄技術であり、金属鉄に微量に含まれる炭素が製鉄に用いた木炭に起源を持つことを基礎にして、鉄製品の ^{14}C 年代測定を行います。

今回の製鉄実験では、たたら製鉄の経験が豊かな財団法人元興寺文化財研究所の協力を得て行われ、初日は、たたら製鉄の原理、炉の構造や実験計画を説明したあと、参加者全員で砂鉄の分割、木炭小片の作成を行いました。さらに、砂鉄の性質、起源、収集方法の解説や、渥美半島産砂鉄や実験に用いた佐賀県浜玉海岸産の砂鉄を顕微鏡で観察し、砂鉄に関する理解を深めました。

2日目は、炉に点火し、炉内の温度計測、砂鉄や木炭の投入量の記録を行いながらたたら製鉄を実施しました。鉄滓の除去がうまくいかず、10kgの砂鉄から、金属鉄と鉄滓の混合物約5kgが回収され、参加者に分配されました。最後に、山田哲也元興寺文化財研究所研究員により、製鉄の歴史に関して解説が行われました。

9名の参加者と6名の保護者が実習に積極的に加わり、古代製鉄への理解を深めました。

第82回防災アカデミーを開催

●減災連携研究センター

減災連携研究センターは、8月30日(木)、環境総合館レクチャーホールにおいて、第82回防災アカデミーを開催しました。

今回は、稲田眞治名古屋第二赤十字病院救急科部長が、「5カ月に及ぶ震災被災地への医療支援でみえたこと」と題して講演を行い、東日本大震災時の医療救護班の派遣概

要をはじめとして、実際に現地へ医療支援に赴いた際の状況などについて、詳しく話をしました。

医療救護活動に関し、石巻医療圏では、超急性期(～3日)は医療ニーズの探索、急性期(7日～2週間)は巡回診療による医療ニーズの評価、亜急性期(～1カ月)は医療救護の計画と実施、慢性期(～約半年)は被災地の医療の自立を目指す、といった災害サイクルで行われたことなどが紹介され、今後は、迅速な派遣が可能な医療チームの養成や、医療本部の適切な準備で被災に備える必要があることを強調しました。

参加者は103名にのぼり、講演後は、医療救護班が出発する際の携行品、医療活動における電源やガソリンの確保に関する実態、南海トラフで巨大地震が発生した際の医療活動及び電子カルテを用いた傷病者に関する情報共有などについて、活発な質疑応答が行われました。



講演する稲田部長